

研究部レポート

越冬期調査

1. 東京23区のおオタカ・ノスリ一斉調査・第3回



昨冬、23区内の36か所の緑地で実施し、「オオタカ19羽、ノスリ10羽が生息」ということを明らかにしたこの調査。今冬も同じ形で1月8日(日)午前10時～12時の2時間で、一斉に実施します〔予備日：1月9日(月・祝)〕。調査地は36か所と限定せず、なるべく増やしたいと思っています。また、23区以外も参考記録として実施しますので、前回参加できなかった方、興味のある方は、下記の集まりにご参加ください。調査方法等お知らせします。

カラスに追われるノスリ©H.kawachi

研究部例会 越冬期のおオタカを調べる

日時：2016年12月2日(金)午後7時～9時

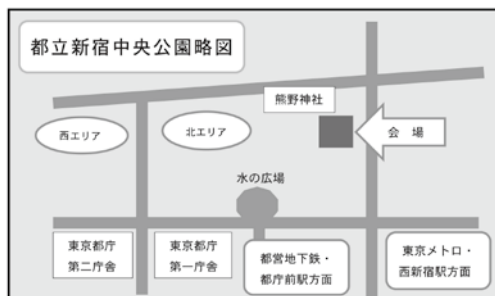
場所：新宿区立環境学習情報センター・研修室

《都立新宿中央公園内・略図参照》

資料代：200円 担当：研究部

【プログラム】

1. 講演：栃木県下でのオオタカの冬のくらし
オオタカ保護基金 遠藤孝一氏
2. 報告：23区のおオタカ・ノスリ一斉調査の成果
日本野鳥の会東京 川内 博氏
3. 調査計画：2017年のオオタカ・ノスリ調査について



2. カモを中心とした個体数調査

例年実施しているこの調査、今冬も下記の要領で実施します。

- (1) 調査範囲：島しょ・海上を含めた東京都内全域
- (2) 調査期間・時間帯：2017年1月7日(土)～1月15日(日)の間で1回。9時～15時を原則。
- (3) 調査方法：カモ類および下記の水鳥10種のカウント実施。他の出現鳥の個体数は概数。
〔カイツブリ・カワウ・ゴイサギ・ダイサギ・コサギ・アオサギ・バン・オオバン・ユリカモメ・カワセミ〕 ※ハクチョウやガン、コウノトリも飛来しています。ご注意ください！
- (4) 結果報告：1月末までに、メール・手紙・ファクスなどで事務局・越冬期調査係へ

新・東京の鳥・3

イソヒヨドリ 謎だらけの内陸部進出

八王子で繁殖している“磯の鳥”

“イソヒヨドリに会いに三浦半島へ”はもう古い！彼らのさえずりを聞きたければ、“JR中央線で、八王子駅や高尾駅で降りて、駅周辺で”が新常識になりそうな状況です。

イソヒヨドリ〔写真〕は漢字で「磯鶇」と書き、「磯にいるヒヨドリのような鳥」ということで、岩場の多い海岸線を好む鳥。遠浅の東京湾岸には棲まないというのが常識でした。しかし1970年代後半から、神奈川県では内陸部へ進出する傾向が見られ、市街地のビルや倉庫などで営巣しはじめました。1980年代半ばには“海なし県”の埼玉・入間市で、高層マンションの屋上近くの間隙で巣とヒナが確認されました。



東京では、1960年代から海に近い中央区や千代田区で単発的に観察されだし、少しずつ内陸部で例が増え、奥多摩湖でも記録されました。その中で、東京湾から50km離れた八王子市ではJR八王子駅構内で、1994年冬に雄1羽が観察されています。地元の八王子・日野カワセミ会の調査では、2009年に駅の南口付近で営巣が初めて発見され、繁殖地は年々拡大し、今年は新たに6か所で営巣が確認されています。そして営巣場所は大型量販店や集合住宅など大きなビルという共通点が見つかっています(図・『かわせみ』第57号)。

内陸部進出は全国的

ところで、なぜ磯の鳥が海から離れた内陸部で繁殖を始めたのか。誰もが疑問の思うことで、都市鳥研究会では、全国的な調査を始めていますが、そのなかで、関西地方では内陸部進出は一般的で、大阪府下に広く定着しているほか、和歌山県の高野山や奈良県の吉野山の山頂でも複数個体が生息していることを、また、山村では、ツバメのヒナを襲うなどの問題が発生していることを報じています(同会HP)。

なぜ八王子？

イソヒヨドリの英名はBlue Rock Thrush(青い岩鶇)、学名は*Monticola solitarius*(山で、孤独に生きる住人)といい、どちらもヨーロッパでのこの鳥の生態を表しています。イソヒヨドリの主産地はユーラシア大陸の岩場。森林の国のわが国へ分布を広げてきた時、彼らの好む環境が「磯」だったと考えられます。しかし、なぜ今ごろになって内陸部へ進出したのか興味あるところです。“全国的に人工の岩・コンクリート化が進んだ”、“従来の生息地・磯の環境が悪くなった”などの諸説が出されていますが、今のところその真相は「謎」です。繁殖分布はお隣の神奈川・山梨まで広がっています。似たような環境は都内各地にあるのになぜ「八王子」なのか、これも謎です。(川内 博)

